

三笠から移住した中井正義さん(没年不詳、90歳で逝去)、ナミさん(同、95歳同)夫婦の兄妹4人の2番目の二女として、東京大学北海道演習林に隣接している富良野市老節布(ロウセツブ、現西達布)で生まれました。



「小さい時からおじいさんに連れられて山に行っていたの。これがアイヌネギって言うんだぞ」と近くの野山で山菜を採り巡った記憶は懐かしい思い出。小学3年生で終戦を迎えました。「サイレンが鳴ったら演習林の中にかく逃げ込んだのよ。恐かった。食べ物も何もなかった。でんぶんかすが配給になるんだけど、ミミズが入っていて食べれなかった」。

父・正義さんは山部の石綿工場に電気技師として勤めていました。静子さんは尋常小学校を経て1952(昭和27)年、山部中学校(新制中学)を卒業しましたが、「校舎も何にもなかったから地ならしで大変だった」という思い出ばかり。

中学校卒業後、叔母が経営していた富良野市内の旅館で働き、泊まりに来ていた政信さん(平成28年、84歳で逝去)と知り合って結婚しました。静子さん24歳、政信さんは28歳でした。

士別出身の政信さんは、旭川市内の菓子

問屋、海産物問屋に勤め、営業職として飛び回っていました。

「父と違って物静かな人と温厚で、夫婦は同居していた義母に子供たちを預けて一家を支えました。政信さんはその後、旭川で海産物卸し商として独立しましたが、信頼していた仲間商品を持ち逃げされ、夜逃げ同然に転居したことも。

すべてを失って層雲峡温泉のホテルに住み込みで働き、静子さんは一家を支えるため、東川町内の家具工場に勤めて息子2人を育て8年間の苦しい時期を乗り越えました。

1995(平成7)年、現在地に転居すると生活は落ち着きを取り戻し、「お父さん(政信さん)が元気なころは、『山に行きたい』と言うと、連れてってくれたの。お父さんは車の中で待っているの」と一人で野山に分け入り、季節の山菜、きのこ採取に出かけるように。「お父さん、良い所知ってただけだけど、『教えてよ』と元氣な時に聞くのを忘れちゃったな」。

幸せもつかの間、間もなく政信さん、長男を相次いで病気で亡くし、以来一人暮らし。今も車を運転しては山に出掛けるほど山好きで、「山菜がなくても山歩きに出掛けたいの」。横浜で暮らす二男(55)は心配になって時々電話をかけてくるそうです。

俳句

六月の空へ響かず釘打つ音  
 葉陰より夏の真夏日蟬の声  
 夏の庭虫取り網に野生の目  
 愛叫ぶ蛙包み返す地球  
 風になるぶらんこの息ぼくの息  
 みどり児の残り香腕に風薫る  
 初夏や一瞬青空の粒子となり  
 菜の花をかきわけ進む単線路  
 りら冷えや杖を友とす余生かな  
 いい湯だな美肌あざやかブロッコリー  
 夏祭り如雨露に水をたっぷりと  
 新緑や森ごと掛けるドレッシング  
 佇めば子芋の寝息芋の花  
 鼻歌でテネシーワルツ夏の宵  
 青葉闇なるんじやないよ迷子には  
 物忘れ笑いとばして毛たんぼぼ

佐々木りえ  
 斎藤夕桜  
 山内みゆ  
 由川真人  
 小林ろば  
 杉山ひろのり  
 保科なほ  
 徳光吐苦  
 杉山りつ  
 こばやし 星来  
 横田則子  
 高瀬潤  
 石澤清宏  
 三島智  
 若田郁  
 本田咲

